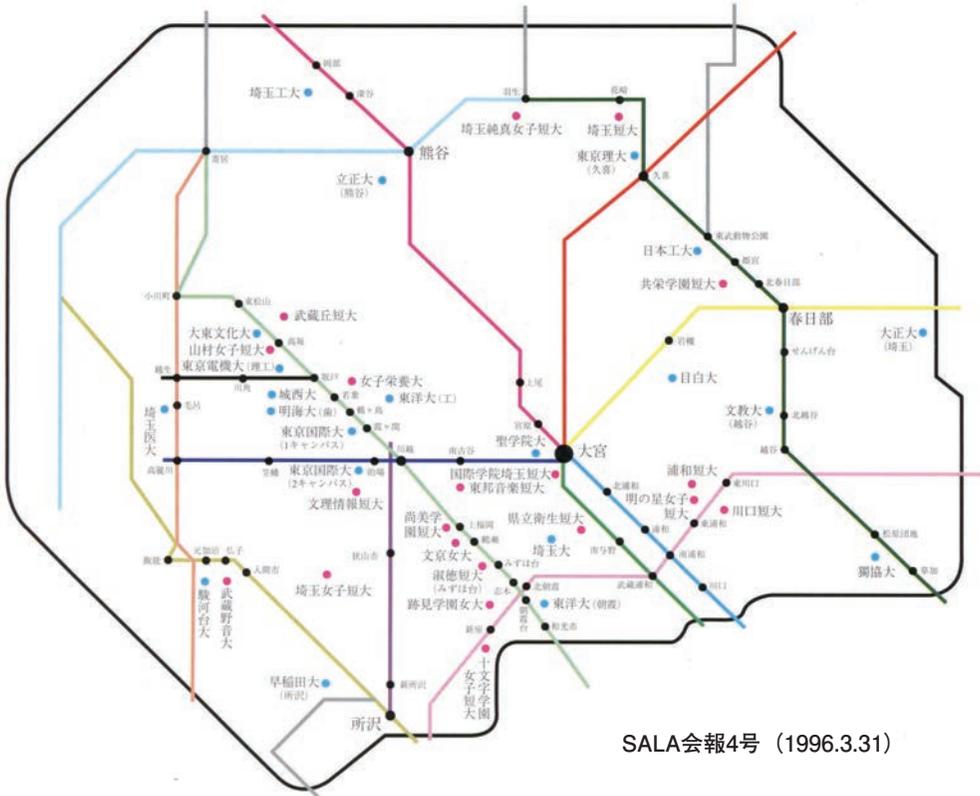


埼玉県大学・短期大学図書館協議会

30周年記念誌
特別号

2019.3.31

<http://www.sala.gr.jp/>

SALA会報4号 (1996.3.31)

本会誕生史話

元埼玉大学附属図書館
小野崎 好夫

「蒔かぬ種は生えぬ」と言うが、あの時蒔いた埼玉県大学・短期大学図書館協議会と言う種が30年後のいま大木に成長したことを聞き喜びにたえないものがある。あの時とは、昭和56年の日本図書館協会の全国大会が浦和市で開催するため急いで埼玉県大学・短期大学図書館協議会を誕生させたことである。これまで、埼玉県は公共図書館、学校図書館等の活動は全国でも高く評価されているが大学・短大の図書館は独自路線で図書館サービスをしていたので全県的な組織は不用と認識した経緯があったものと思われる。県境を超えた東海地区大学・短期大学図書館協議会や東北大学を核とした宮城県大学図

書館は70年余の歴史があると聞かすが、本会の誕生には各大学・短大図書館の実情を知る必要があり、東部地区から文教大学、中部地区から埼玉大学、明の星短大、西部地区から城西大学、東京国際大学が世話人となり大学・短大の実態調査をして総会でその報告をしている。当時、大学・短大の図書館は目録カードから現行の全国ネットシステム入力に移行する時期でありましたからドタバタ劇の本会誕生であった記憶がある。それにしても「本会の誕生に否定的だった核」となるべき埼玉大学の…

こんな経緯を経て誕生した本協議会をますます発展させるのは加盟会員校の皆さんである。どうぞ、他県に負けない協会を育てて欲しいと念願するものである。

最後に、多くの労をとった戸田猛さん（城西大学）、関根敬一郎さん（県立図書館）両氏に感謝する。

「SALA」創設当時の思い出

元城西大学水田記念図書館
戸田 猛

SALA 会報 10 号（平成 14 年 3 月号）に私の定年での去るにあたっての感想文を載せてもらったので今さら思い出話しも恐縮であるが、せっかくのチャンスをいただき SALA に関係した者としてかすかな想いをふるい起こしながら書いてみたいと思う。

図書館へ異動を受けた時、その前は就職課長として仕事をしていました。富士フィルム、朝日信用金庫など民間企業にいたため就職関係の業務はこの職場でサラリーマンとして天命であると思っていた矢先の異動であった。図書館と同じように埼玉県内にある大学就職部の協議する場を設けたいと思い異動命令を受ける 3 月に 30 校ぐらいの各大学の了解を得て「埼玉県内大学就職協議会〔仮称〕」を、城西大学を本部として発足させる予定になっていた。ところが異動である。

その時、私の生涯の生きるか死ぬかの分れ目、昭和 20 年 3 月 10 日の「東京下町大空襲」で浅草六区、浅草寺と焼夷弾の降る中を逃げまわり十万以上の方々が亡くなる現実に九死に一生を得た実体験が頭をよぎった。このような良好な職場に来たのだから何でもやってやろう

と気持ちになった。

SALA 発足までのことは都合上端折るが、埼玉県には国立大学の埼玉大学があるが協議会は私立大学が中心になって運営していきたいという私の信念があった。しかし発足のためのお付き合いの中で私の依怙地さ、劣等感などがいかに人間として低いかがわかってきた。それは、埼玉大学の小野崎好夫さんとたびたび会う事があり、だんだん気持ちが解れてきた。その内に文教大学の松田上雄さん、東京国際大学の田口稔さんと会う内にすっかり仲良くなり「SALA」は自然と設立してゆく運びとなった。設立総会は城西大学で代表幹事館は埼玉大学というシナリオが出来上がった。

SALA が発足してから定例に行う幹事会で、会議が終わった後で必ずといってよいくらい近所の居酒屋で酒を飲み大いに語り多くの各図書館同志の情報交換をした。私にとり、こんな楽しみはなかった。これだけは脳裏に染み込んで良い思い出として残っている。すべては人間関係が土台になっている。図書館人はややもするとこれらを避ける人々が多かったように思うが今はどうなったであろうか。時代はまわる。いずれ SALA の関係が一般の図書館、民間の図書館関係者などと自由に行き出来るように願っている。

SALA のこれから

2019 年度 SALA 代表幹事館(文教大学越谷図書館)
鈴木 正紀

筆者は縁あって幹事会の一員として 2007 年度から SALA の運営に関与するようになって、足かけ 12 年ほどになる。その間、加盟機関数はいくつかの入会あるいは退会する機関があったが、全体としては 40 半ばぐらいの数で推移している。しかし、この間各図書館の運営環境は大きく変化したといつてよい。

なによりも業務を外部委託する機関が増えたことが挙げられる。その是非についてはここでは触れないが、SALA（というか、「連絡協議会」という名称であった）設立の頃には、専任職員及び非常勤職員が主な人的な資源であっただろう。筆者が現在の職場に勤め始めた 1990 年代初等にはそのような状況であった。委託が増えるのは 1990 年代末からである。そのことは SALA の活動にどういった影響を及ぼしたであろうか。

なによりも影響が大きいのは運営に関することであろう。SALA の運営は幹事会が主体となって行っている。その幹事館は最大時 14 機関あったが、現在は 10 機関である（1 機関から複数の幹事が出てくださっているところもあるので、人数は機関数とは異なる）。

筆者が幹事会メンバーとなって以後、幹事会を構成する機関にほとんど出入りはない。業務委託との関係でいえば、業務委託部分が増えたことで専任職員が減り、幹事館になることができなくなったという機関がある一方で、そうした状況であるからこそ幹事会に出て、他大学図書館との連携を維持・強化していく必要があるという判断のもと、幹事会メンバーとして活動して下さっている機関もある。しかし上述したように幹事会構成機関数が減っていることの本質的な理由は専任職員を SALA の活動に割くだけの余裕がないということのようである。現在、持続可能な幹事会の在り方について検討を行っている。その成否は今後の SALA の活動に少なからず影響を与えることになるであろう。

SALA は多彩な活動を行っている。研修会の開催、共通閲覧証の運用といったことは設立当時から実施されている事業であるが、それ以外に時々の環境の中で新たな取り組みを積極的に推進してきたのが SALA であるといつてよいかと思う。共同リポジトリ SUCRA の運用（現在は終了した）、共同購入事業の実施、オープン・ライブラリー・ウィークス（OLW）の実施、毎年開催される「図書館と県民のつどい埼玉」への協力団体としての参加、ウェブサイトの維持などである。

この中で、共同購入事業はもともとデータベースの

SALA 加盟機関による共同契約を視野に入れて検討を始めたという経緯がある。業者との具体的な検討までいったのだが、最終的に断念せざるを得なかった。しかし、現在の消耗品等を中心とした割引での購入が可能となっていることは、図書館における調達にとって益するものがあるだろうし、大学に対しても、図書館の協力関係の中から大学の財政にいくばくかであれ資することがあるということはアピールできる点でもあろう。

さて、ここからは SALA の未来を展望してみたい。

2018 年の総会後に開催した創立 30 周年を記念したトークセッションでは、設立のころを知る方々に当時の様子をお聞きすることができた。そこからわかったのは、「一番大きな目標は、人的な交流を深めていくこと」(若生政江氏: 元城西大学) であったということだ。この世界で仕事をしている人たちにとっては当然のことと認識されているだろうが、図書館のサービス・業務は、図書館単体に取り組んでもおのずと限界を生じやすい。そこを乗り越えるためにはフォーマルあるいはインフォーマルな人的関係がとて重要になってくる。この点について SALA が用意している機会は、研修会、OLW、そしてメーリングリストである。

研修会は、上述したように図書館で働くスタッフの

雇用形態が多様化する状況を踏まえ、参加資格を広げ、そうしたことにとらわれず参加できるようにしてきた。OLW は、OPEN 館がなかなか出てこないという課題を抱えてはいるものの、県内大学図書館で働くスタッフがある意味では研修会よりもパーソナルな人間関係を築きやすい場となる可能性があるのではないかと。OPEN 館はテーマ設定をする必要があり、そこがハードルになっているのかもしれないが、主たる効果は、図書館員が自分の職場以外の図書館を訪れ、そこで実践されているサービスや環境を実際に見て、そしてそこに集まった人々と名刺や意見を交換することにあるのだと思う。

若生氏の話から、設立にかかわった人たちは「熱い思い」をもって SALA を立ち上げたことがわかる。一つの団体・組織を立ち上げるには莫大なエネルギーと勢いが必要なのはいうまでもないことだ。しかし、それを維持・発展させていくのも同じことであろう。設立から 30 年がたち、当時を知る人たちは一線を退かれた。次の 30 年に思いをはせると、原点にあったことを知り、何よりもその「思い」を継ぐ人たちは継承し、環境に適合的な運営をしていくことが肝要なのではないだろうかと考えるのである。

SALA 創立 30 周年記念トークセッション

「SALA の 30 年を語り合う」

【鈴木】 今、スクリーンに映っているのは、「SALA30 年フォトギャラリー」という、ちょっと大業なタイトルなんですけれども、この時間のためにせっせと準備してきました。

SALA は 1988 年の 5 月 19 日、今日は 2018 年 5 月 16 日ですから日はそんなに違わないのですが、城西大学で設立総会を開催したという記録がございます。その時にはまだ、埼玉県大学図書館連絡会、「連絡」という文字が入っていたということなんです。その後、会名から「連絡」が取られたのはかなり後のことで、10 年ぐらいたって 1998 年にとられたということも記録に残っております。最初の参加館は 31 館。現在は 46 館です。

このような形でスタートした SALA なんなんですけれども、その後の歩みを振り返るにあたって、これ以上の方はいないだろうというおふた方を今日はお招きしております。

私の手前のほうの方ですけれども、ほんとうにこの 3 月まで現職でいらっしゃいました城西大学の水田記念図書館の前事務長であります、若生政江さんです。若生さんは私たちと一緒に幹事会の活動をずっと続けていた

いたという方でもあります。そして若生さんの右隣りにいらっしゃる方が、村中登さんです。村中さんは、埼玉県立熊谷図書館の首席司書主幹ということで、現在もお勤めでいらっしゃいます。

実は、今日始まる前に少し打ち合わせをしていたのですが、お 2 人とも SALA の草創期になんらかの形で関与されていたということが分かりました。若生さ



んが大学図書館という立場から関わりになっていたということは、比較的想像しやすかったのですけれども、公立図書館、県立図書館の立場で村中さんが非常に関与されていた。これは非常に驚くべきことでした。埼玉県内にある図書館の結びつきについて色々新たな発見をする事前の打ち合わせでした。

まず、お2人から自己紹介ということで、お話しをいただけたらと思います。若生さんお願いできますでしょうか。

【若生】城西大学に勤めておりました若生でございます。

最初に、SALAの幹事ということで、2008年から2015年まで幹事をしておりました。今回は、そのことよりも草創の時、設立のころの話をお伝えできることがあるかなと思って参りました。

城西大学で設立総会をしたんですけど、芝浦工業大学の山本二郎さんというところがいらっしゃいました。山本二郎さんと当時、私立大学連盟の研修で、図書館研修というのに参加して、山本二郎さんと初めてご挨拶をしたのです。そこで「埼玉も、大学の図書館連絡協議会みたいなものを作ろうよ」というお話があったんです。私は「じゃあ、帰って事務長に言ってみますね」とお話をしました。

それからすぐ、芝浦工大の山本二郎さんから電話連絡があって当時の戸田猛事務長が、いろいろお話を聞いて、「うちもそれはすごく賛成だから、いいんじゃないの」ということで、最初にお会いしたようなんですね。そのあと、準備会をしますから、という案内状がきました。それで、城西大学は「みんなで行こう」というのがモットーというか（笑）、みんなで色々お話を聞いたんです。

その当時、前の東京理科大学の黒沢正彦さんという方がいらしたんですけど、その方が、千葉での図書館連絡協議会のあり方を説明してくださったんです。それで、埼玉もそれに倣ってやったらいいんじゃないのという話だったものですから、芝浦工大のほかに埼玉大学の長塚誠さん、先ほどの黒沢正彦さんの3人が最初に協議して、発起人になって……。そこから文教さんとか城西とか東邦音大さん、芝浦工大さんの5校が発起人になりました。

準備会を作って、各大学に案内を出して、「これからやりたいけれどどうでしょう」というお話をしてくださったんですけど、その時にほとんど賛成で、意見交換しました。特に連絡協議会という名前だけでも、埼玉には当時、短大もかなりできてきた時期で、短大も含めてはどうかというお話になりました。あとは実務者の研修というのを主に考えていかないと、スタッフの交流が一番大事なんじゃないかというお話も出て、この会がまとまりまして。設立準備会が4回ぐらい開かれたんです。

その当時、埼玉大学さんをお借りしたこともあるのですけれども、県立の浦和図書館も会場にして……。それから短大を含めるにあたっては、発起人校に短大も含めたほうがいいんじゃないかというお話があったようで、聖学院大学さんが当時はまだ短大だった（女子聖学院短期大学）ので、参加していただいて発起人に加わっていただいたわけです。

この写真にあるのは1988年の5月ですね。この時に27校で40名の出席があったのですけれども、当時の日本図書館協会の専務理事の多田二郎さん、あるいは井上学さんに来ていただいて華々しく（笑）やったわけですね。たまたま城西大学が会場に提供していたのです。

その時のお話というのは、会費をどうするか、幹事館をどう選出するか、代表監事館があったほうがいいんじゃないかということで、国立の埼玉大学さんをお願いしたほうがいいんじゃないかという話できたと思います。そんなようなお話から2回、またそのあと幹事会を会場持ち回りでやってきて、第2回が東洋大学の朝霞でやりました。そのあと、短大のほうからも、山村女子短大さんとか埼玉県立衛生短大さん。第3回の総会は、東京国際大学の第2キャンパスでやったのですけれども、そこでは文理情報短大、埼玉女子短大、埼玉短大などが新規に加盟されまして、この時点で36館の加盟館でした。

その時には、相互協力というのをメインにしましょうということでしたので、共通閲覧証をその時点で各館に5枚ずつ発行してもらおう。平成2年（1990）のことです。

最初のころからの目標というのは、地域の中での相互協力を目指そう。その中では、たとえば埼玉を1つにまとめてやる。あとは実務者の研修ですね。研修をしていこう。あるいは会報を発行していこうとかいうこともあったのですけれども、一番大きな目標は、人的な交流を深めていくことによって、図書館の利用が自館の図書館に対してメリットが大きくなるんじゃないか、ということだったと思うのです。



そのあとはほとんど管理職の方が出ていましたので、私は出ていませんでした。人的交流というか、飲み会をやっているんだな、といつも見ていたんですけども(笑)。それが一番大事で、今でも続いていることかな(笑)、と思っています。

SALAの30周年ということなんで、最初のころの資料を、大学に借りて読ませていただきました。その中で一番私が感じたことは、文教大学には松田上雄さんという方がいらした。「松田イズム」が文教大学には整っている、その方をやはり入れないわけにはいかない、という話が出たそうです。もう1つは、埼玉大学に小野崎好夫さんという方がいらして、その方も心根の優しい方で、細かいことによく気づいて色々やってくれました。それから、もちろん山本二郎さんはそうですけど。あとは、城西大学の戸田猛事務長が、本当に飲み会が好きだったんだなと(笑)思うんですけど。でも、交流という部分では、スムーズにするためにはお酒も必要かなと思うのです。ある意味、戸田猛事務長という方は、図書館員っぽくない人だったので、そういう人が何回も会報に文章を書いているんです。すごくSALAに対する思い入れがものすごくあったと思うのです。自分たちで、とにかく埼玉県の中で作っていきこうという思いを形にできたという、その自負があったんだろうな、という気はします。とくに芝浦工大の山本二郎さんが、とても残念なことに東京に転出してしまったんで、その分もずっと続けていってほしいなと思っています。

【鈴木】 はい、ありがとうございます。

では、村中さん、よろしくお願います。

【村中】 埼玉県立熊谷図書館の村中と申します。

埼玉県に入庁して30年あまり経っております。入庁したところは、県立図書館も、浦和、熊谷、川越、久喜とあったのですが、私が行く前に、川越図書館はなくなりましたが、それぞれの館で図書館協力担当をやっています。

私が採用された時は、まだ図書館協力という言葉はなく、移動奉仕課という名称で移動図書館に乗っていました。その後、図書館協力という仕事がメインになっていくという感じになりました。県立図書館3館での勤務のほかに、類縁機関として、私は埼玉文学館、県立大学、県立がんセンターの資料室で働いていたという経験もございます。とくに県立大の前身となっているのが衛生短期大学というところなんですけれども。県の職員がだいたい2年から3年ぐらいで交代して赴任していたということになります。ただ、今は委託という形になっており、県の職員は行っていません。

数えてみるとキャリアの半分くらいは図書館協力の仕事をやっておりまして、いちおう県内の図書館は、ほぼ行ったことがある感じです。そのほかに埼玉県の図書館



協会の事務局の中に、図書館ネットワーク専門委員会という市町村の図書館の方も委員として出ていただいて活動している委員会があるのですが、その専門委員会の事務局のほうも3回ぐらい務めています。よろしくお願いたします。

【鈴木】 ありがとうございます。

草創期のことは分からないことが多いですね。私がちょっと意外だったのは、当館が発起人ということで名前を連ねていたようなんですけれども、実のところ呼び込まれている側であるということが、ちょっと意外でした。なぜなら、松田上雄さんという方は、もともと東大の図書館にいた方なんですけれども、岸本館長のもとのいわゆる大学図書館の近代化というのを実務的なレベルで進めた中心的な方だったのです。その方が文教大学、当時は立正女子大という名称だったのですが、移ってきて、1981年に今の図書館ができました。開かれた図書館、学生のための図書館というようなある種の、ほんとうに「イズム」というようなものを明確にお持ちの方だったのです。ですから、SALAの発起人の中に名前を連ねているだろうと思っていたんですけども、実はそうではないというのが、ちょっとビックリしました。

設立総会の写真、当時は集合写真を撮るのがやはり大好きだったみたいです。なにせ手書きで議事次第を作成したというのが、時代を感じさせるなあという気がするのです。

東京国際大学で開かれました第3回の総会の時になると、看板がなぜかワープロ文字になっている。若干5年ぐらいの間に、そういう文字作成環境も変わっているのだな、と思ったりしました。

紹介のあとは、図書館見学をやるというのが、今でも習わしだと思うのです。設立総会の時の懇親会は、座席を決めた座り方式だったらいいですけども、第6回になるともう立食という形になっています。

このような初期の流れがあったわけですけども、村中さん、県立図書館の職員という立場で、県内の大学図



書館とどのような接点があったかを、お話しいただければと思います。

【村中】 先ほどもちょっとお話ししましたが、埼玉県図書館協会の中に、図書館ネットワーク専門委員会という委員会があるんです。この委員会は基本的には調査とか、それに基づいた研修、あるいは検討を行うことで、図書館のネットワークに関わるいろんな問題を取り上げているんです。

当初の目的は、県内の公共図書館の所蔵状況、所蔵情報の共有化というのが一番大きな命題でした。平成7年(1995)にこの委員会が立ち上がって、それから10年ぐらひは、目録とか横断検索とかそういったことを検討したり研修会を開いていたんです。県立図書館として、次はどういうふうにネットワークを広めていこうかという時に、大学をはじめ類縁機関との連携をとれないかというのが課題の1つとして挙がって来ました。

平成17年(2005)に、大学図書館との相互貸借に関する調査を、県内の市町村図書館と大学図書館に対して共通する設問を設けたアンケート調査を行いました。調査結果は、冊子にまとめてご協力いただいた大学にもたぶんお配りしてあると思います。アンケートの内容は、市町村には、「大学図書館に対して相互貸借の申し込みをしたことがありますか」という設問。大学には、「市町村の図書館から資料を借りたことがありますか」という設問で、両方の意見を対照できるアンケート調査を行いました。それが大学との接点の一番の始まりだと思います。

あと、大学図書館から相互協力についてお話をうかがい、当時の埼玉大学の情報課長さんでした気谷誠さんにおいでいただき、SALAの活動についてご報告をいただいたのが最初の発端だと思います。公共図書館側としては、SALAを初めて知ったのはこの機会だったと思います。大学図書館とどういうふうに連携をとるかが明確になったと思います。

このアンケート調査は、分析等をつけて報告していま

す。物流の問題が大きいという検討結果であったということになります。

その中の総括の一文です。「公共図書館と大学図書館、どちらも人が学ぶことを援助する機関でありながらお互いに知る機会がなかった。今回のアンケートは、いわば異種文明の接触であり、とりわけ大学図書館側にとっては、とまどう部分もあったのではないかと思う」という形で総括をしております。また、「大学図書館の利用者は公共図書館の一般的な資料を必要としていないのだろうか？」に対しては、その答えは「NO」だ。毎年レポートの時期には多くの学生が公共図書館を訪れ、公共図書館のカウンターにいた職員が、その対応に追われている。また、公共図書館には高度で専門的な資料を求める利用者が訪れることも多々ある。大学図書館にあるような専門的な資料は、決して学生だけが求めているわけではないという状況です。

こういったところから、大学図書館の存在自体は公立図書館も意識すべき対象ですが、具体的にどういふふうに関連を深めていくかについてはそれ以降進んでいない現状という感じです。

【鈴木】 ありがとうございます。

皆さんは、県立図書館と埼玉大学さんと埼玉県立大学さんの間に相互協力の連絡車が走っているというのは、ご存知でしょうか。そのへんの経緯を、差し支えない範囲で教えていただければと思うのですが。

【村中】 まず埼玉大学さんと相互貸借の協定を結ぶために物流を確保しなければならないので、県立図書館で、市町村を回っている車のコースの中に埼玉大学さんも加わることにしました。1年遅れて、県立大とも同じような協定を結んでいます。そこで県立図書館と県立大学、埼玉大学との相互貸借ができ、それから物流が確保されました。

それから3~4年かかって、今度は県内の公共図書館と埼玉大学、県立大学との間で相互貸借の協定を結ぶ運びとなりました。協定できて、県内の市町村が埼玉大、県立大の資料を利用できることになった。逆に埼玉大さんですとか県立大さんが市町村の資料を借りるということはあまりまだ需要がないのかな、一方的に公共図書館のほうが恩恵を受けていると思います。

それに大学図書館が、県内の公共図書館に対して貸し出していいよと言っていたのが、大きいと思います。

【鈴木】 ありがとうございます。

私は、図書館に勤めて25年ちょっとですけども、J-BISCというのが昔ありまして、それは日本図書館協会が作った、CD-ROMにデータを入れて検索して所蔵情報まで確認できるというようなシステムでした。それを準用した形で、埼玉県立図書館のほうで、彩BISC、

彩 BISC の彩は彩の国の「彩 (サイ)」です。それを埼玉県立図書館のほうで作って、それを県内の図書館に配っていただいた。埼玉県立図書館でどういう本を所蔵しているかという情報を簡便な方法で検索できるようになったというのは、非常に大きかったと思うのです。県立図書館さんはいろんな形で県内の図書館との連携をはかっていく試みを、かなり早くからされていたのだなということを感じました。

さて、今、SALA のウェブサイトがござりますが、1991 年の 10 月に開設をしています。

会報の 8 月号が、今のウェブサイトでご覧になれます。

初代ホームページ担当は、淑徳大学のみずほ図書館でした。淑徳の方が中心になって、このようなデザインのもを構築して下さったということです。

2009 年から 10 年にわたって、この図柄は、SALA の会報の 1 ページ目をいつも飾っていたと思います。

今ここで SALA という愛称が飛び交っていますけれども、愛称が決まったのが、1996 年度の総会です。その協議会での提案が、SALA——Saitama Academic Library Association の略称です。SALA となって、会報のデザインに反映したのが、第 5 号からになります。

私はよく分からないのですが、加盟館の沿線マップって、すごいなと思ったんですが、近藤さん、これは何かご存知のことはありますか？

【近藤】 もう 20 年近く前の話で、この会報のロゴをたしか作ろうという話があって、どこかの大学さんで沿線マップを、イラストレーターか何かで自分たちで作って、どういう形で埼玉県内に大学があるかということを表紙にしようとしたのですが、どこの大学で作ったのかな？

【鈴木】 沿線マップは、細かな加盟機関の移動とか、細かな修正を本当はしなきゃいけないというような、ちょっと反省すべき点もあります。

冒頭、若生さんの話の中に、SALA の結成の目的の 1 つとして、職員レベルの交流が 1 つの柱としてあったということですが、この点に関しては SALA 会報

以外に、96 年に『SALA 通信』が——この時は紙媒体だったですね——が、発刊されました。発刊の意図として会員相互でのコミュニケーションを図るということ、身近な話題を取り上げること、速報すべき内容を盛り込むことということで、新たに県内の大学図書館に就職した方の自己紹介などの記事を掲載していたと思います。

創刊の辞では、淑徳大学、今は千葉のほうでご活躍の、相澤修一郎さん、長く SALA の面倒をみてくださった埼玉大学付属図書館の永井康友さんが創刊の辞を書かれています。

幹事会の構成ですけれども、2004 年の幹事会の役割分担表は、総会の際にご覧いただいた今の幹事会の分担とはかなり異なっているというのがお分かりいただけると思います。総会・幹事会は代表幹事館の埼玉大学図書館、企画、広報、ホームページ、相互協力便覧、庶務、会計、会計監査と。会計監査は幹事会の中ではないと思うのですが。わりと大きくくりで会を分担していたことが分かります。

2005 年に幹事館数が 14 館と最も幹事館が多くなった時です。この時、加盟機関数は 45 機関となりました。

次が、「図書館と県民のつどい埼玉」。この県民のつどいは 2007 年度から始まっています。このへんは村中さんにお聞きしたいのですが、県内の図書館が一堂に会して一般の方々と交流をしようという主旨の意図についてはどういう狙いがあったのでしょうか。

【村中】 「本を読む県民の集い」という講演会をメインにしたイベント、子ども読書に関わる人たちの集まり、今もつどいの中で続いています。そういったものを図書館協会として開催していこうというのが、始まりかと思えます。

埼玉県の図書館協会として公共図書館側、高校の図書館、大学の図書館に参加を呼び掛けたのが最初の意図だったと思います。

2007 年「図書館と県民のつどい」第 1 回では分科会の 1 つとしてパネルディスカッションが行われたんです。その時のパネリストには、大学の図書館の方、市町村の図書館の方にパネリストになっていただき、私もパネリストとして加わっています。その時のテーマは「こうすればあなたの手元に本が届く」だったと思います。それぞれの図書館で、利用者の方にどういった形で本を提供しているかをメインの話にしてパネルディスカッションを行っています。

以後、それぞれの大学図書館の方にご参加いただいて、今年も「つどい」を開催させていただいております。

【鈴木】 ありがとうございます。

2007 年の時は、かなり大雨だったという記憶が、私はあるのです。その翌年 2008 年からは、当時の埼玉大学の図書館課長さんの発案で、とにかくお宝を見せよう



じゃないかということで、SALA 加盟機関の自主参加という形で、所蔵資料の合同展示が今も継続しています。参加機関は自分の図書館のPRといったことも狙いつつ、様々な企画、あの手この手の企画で参加した方に自館の資料を見ていただくということです。

【村中】 この当時はさいたま市さんも共催ということで会場費がかからなかったのですけれど、最近はお金がかかってしまう。ここのところ、桶川市とか北本市でやらせていただいているというのは、共催として使用料を減免して下さる(笑)というのが大きくて、そちらでやっています。

【鈴木】 ありがとうございます。

この沿線マップの「SALAの4S」と、そのポスターの上に書いてある「埼玉を支えたい最高のサービスで」の最初のSを4つとって、4Sというふうにしたのです。

その後時間が流れまして、機関リポジトリ SUCRA という時代に入っていきます。今現在、リポジトリは JAIRO Cloud を使う所が増えていると思うのです。

埼玉大学が当時、CSI、サイバー・サイエンス・インフラストラクチャー事業というのがNII、国立情報学研究所の事業としてありまして、補助金を出して各大学にリポジトリ構築を促すというようなムーブメントがありました。埼玉大学さんもそのお金を使って独自にリポジトリを構築したのですけれども、埼玉大学さんの方から地域共同リポジトリという形でやらないかという形で参加を呼び掛けてくださったんです。

本学がまず2009年の秋口にデータ登録を開始して、その後、この共同リポジトリに参加するところが増えまして、共同リポジトリとしての運用が本格化していきました。

この時県立図書館にも、実は埼玉大学の担当の方が声をおかけしたんですね。そのへんのことについて、村中さん何かございますか。

【村中】 その話があった時点では、まだそういったリポジトリにふさわしい資料がないということで、ペンディ

ングという状態かと思います。現在、報告書の類とか、パスファインダーとか、各種の資料リストを作って、それを図書館のホームページにあげています。もしこの先やるとすれば、メタデータをつけて検索できるようにしたら、という話があります。

【鈴木】 ありがとうございます。

この埼玉県地域共同という名前にあるとおり、埼玉大の当時担当していた方は、真剣に、埼玉県からの情報発信基地として、これを整備していきたいという思いが強くあったと思っています。

そして、SALA 設立の大きな目的の1つとして、相互協力の活性化があったとお聞きしました。ここに2枚の共通閲覧証というのがあるんですけども。上が最初に作られたものですね、若生さん。

【若生】 はい。各館5枚配っていますね。

【鈴木】 それぞれ番号があって、管理台帳みたいなものも紙に残っている。目的としては、県内の図書館の相互利用の促進ということで、そのシンボリックな意味合いがこの共通閲覧証にはあったと思います。というか、管理が十分しきれなくなった状況の中で、たとえば山手線コンソーシアムのように、学生証だけで入れるようにしてもいいのではないかと、みたいな議論もありました。非常に紆余曲折があったのですけれども、最終的には現在のプラスチックの共通閲覧証という形に落ち着いた。しかも、この共通閲覧証を持って加盟機関に行った利用者に対しては人的な負荷をかけないサービスを提供する。入館とあとは館内閲覧と複写くらい、そこで仕事をしているスタッフに人的な負荷をかけないようなサービスは、この共通閲覧証でまかなうというような運用ルールも決めて、新たなスタートを切ったのが2005年です。この共通閲覧証の話については、若生さん、何か？

【若生】 共通閲覧証の利用については、いろんな考え方があって思うのです。それはその大学の送り出す側の図書館の人が、責任をもってこの学生を行かせるよ、ということが分かる閲覧願みたいなものかわりになると思うんです。また、共同利用という部分では、そこにしかない資料を見たい人に、自分で行って見せてもらいなさい、というために共通閲覧証というものを作ったのではないかなと思っています。

【鈴木】 ありがとうございます。

今の運用ルールも、実はまだ改善できる可能性は十分にあるのではないかと、私も思いました。そのためには、加盟機関の合意形成というのが不可欠です。

ここまで30年というものを振り返ってきました。これから30年、どうやるんだろうという話に、普通はなると思うんですけども、そこはなかなか会場とのセッションというのなかなか難しいですね。ただ、今一番幹事会の中で課題とされているのは、運営体制です。



事前の打ち合わせで若生さんから出たのですけれども、設立を意図した人たちのエネルギーは半端じゃなかったのではないかという話があったんです。最後に、そのへんを若生さんの率直な思いをご披露いただければと思います。

【若生】うちの城西大学の戸田猛事務長がいろいろ書いているんですけども、事務長だったり課長だったりという人たちが図書館をどういうふうにしていかなきゃいけないかという、熱い思いがあったと思うんです。その熱い思いがなかったらここまでつながってこなかったし、これを続けていってほしいなと思っているんです。実は、今日は本当は戸田猛さんは出たかったみたいなんです(笑)。私が代わりなんですけれども、ほんとうは戸田猛さんが話をしたかったんだらうと思います、すごく熱い思いを。図書館って、社会の状況によって変わっていくんですけど、そこでなにか対応していかなきゃいけないという時に、協力関係があるというのはすごく大きいと思うので、そういう意味で協議会を続けていってほしいし、率先して幹事になっていただいて引っ張っていけるようなことを、皆さん考えていただければと思います。

また、幹事がなんでも決めていくのではなくて、幹事で、「なかなか難しいよね」と言っているところに若い人の力を借りて、それを形に作ってもらうような、幹事会でサポートできるようなあってもいいのかなと思ったりしていますので、ぜひ、続けていってほしいです(笑)。

【鈴木】ありがとうございます。

実は、神奈川県立の大学図書館の協議会は、今現在は解散してしまっているんです。その原因の1つは、やはりずっと中核を担ってきたところが、くたびれ切ってしまって、もう嫌だというふうに、ちょっと言葉は悪いのですが投げ出してしまったというのが、解散の一因みたいなんです。

若生さんと同じように私も、できるかぎり県内の相互理解をはかる素晴らしい場として機能していってほしいと思います。

村中さん、最後ですが、県立図書館という立場から、SALAに期待することを一言いただければありがたいのですが。

【村中】SALAに期待することというものだけではなくて、ちょっと外れてしまいますが、大学図書館と公立図書館の交流、つながりというところを一つの可能性として広げていくといいと思っています。

それから、「つどい」の時にボランティアを経験した学生さんの中からは、埼玉県に司書として採用された方がいらっっしゃいます。その時のボランティアの経験が1つ契機になったといったようなお話を聞いたことがございます。



いま公立図書館のほうで、サービスのキーワードの1つに「ビジネス支援」があって、どこの図書館でも取り組んでいます。たとえば県立図書館には企業情報のデータベースであったり、様々な業界ごとの概要をまとめた資料があるんです。実は学生さんの就活に使える資料というのが、ビジネス支援のもう1つの側面になっていると思います。ぜひ地元の公共図書館を見ていただけたらと思っております。それがSALAとの間での大きなムーブメントになればより良いことだと思います。よろしくお願いします。

【鈴木】ありがとうございます。

それではもう少し時間がありますので、こちらからの話はいちおう止めさせていただいて、皆さんから何か感想、質問とかを、少しいただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

【近藤】質問ではないのですが、一番最初に90年代アタマのころ、毎年、相互協力便覧の校正を、ファクシミリでお願いして、フロピィか何かでデータをお配りしていたように思います。それをホームページで公開、98年、99年当時に立ち上げていました。そして、先ほど鈴木さんのほうからもお話がありましたように、現在のCMSで公開し、自館のほうで入力できる、修正できるような形にさせていただいたということが、その時の大きなリニューアルの目的でした。

そして、お互いの相互利用というもの、その時に共通閲覧証のアンケートをとって、若生さんからお話が出たような形で活性化させていきたい、というふうに思っています。

【鈴木】ありがとうございます。

今のウェブサイトはCMSにしたというのはそういう意図があったということですかね。そのへん、連絡体制をもう1回整理したほうがいいのかなあと思ったりします。

それでは、ちょうど時間となりましたので、このトークセッションはお開きとさせていただきます(拍手)。どうもご参加ありがとうございます(拍手)。

SALA会報の目次

SALA 会報**1992年12月1日発行**

会報の発刊にあたり 石川澄雄（代表幹事館 城西大学水田記念図書館館長）

図書館と電子化 土肥泰（前代表幹事館 埼玉大学附属図書館館長）

《特別寄稿》苦勞のない苦勞話—協議会の生まれるころ— 松田上雄（前文教大学越谷図書館館長補佐）活動報告（発足～今年度）これまでの足跡 戸田猛（城西大学水田記念図書館事務長）

総会あれこれ—第5回総会を終えて— 小野崎好夫（埼玉大学附属図書館）

活動歴 1992年10月末現在

加盟館紹介（1）

埼玉短期大学図書館—わが図書館の現状— 柏村静子（館長）

立正大学熊谷図書館の紹介 瀧義隆（閲覧奉仕課長）大東文化大学60周年記念図書館 吉江一徳（課長補佐）シリーズ随想 人的・物的交流 高野恭一（明海大学歯学部図書館課長）

SALA 会報 第2号**1993年12月1日発行**

居場所としての図書館 水田宗子（城西大学副学長）

活動報告'93 第6回総会を終えての寸感 5月27日城西大学にて開催 戸田猛（城西大学水田記念図書館事務長）

活動歴 1992年11月～1993年10月

埼玉県の短期大学図書館の現状 上沢田浩（聖学院大学総合図書館司書課長）

短大図書館対象のアンケート実施にあたり 遠藤恵子（明の星女子短期大学図書館司書）

《エッセイ》学生主体の図書館づくり 伊藤恵子（東邦音楽大学図書館主任）

加盟館紹介（2）

跡見学園女子大学図書館 豊嶋美紀（図書課長）

日本工業大学図書館 松本勇一郎（主任）

埼玉県立衛生短期大学附属図書館 吉田雋（図書館長）淑徳大学図書館（みずほ台キャンパス） 高野洋弥（司書）シリーズ随想 幹事館会議余聞 戸田猛（城西大学水田記念図書館事務長）

SALA 会報 第3号**1994年12月1日発行**

緑陰断想—パニヤン樹の下で— 石原武（代表幹事館文教大学越谷図書館館長）

《特別寄稿》図書館のネットワークについて 村田文生

（埼玉県立浦和図書館館長）

活動報告'94 第7回総会の概要及び所感 戸田猛（城西大学水田記念図書館事務長）

活動歴 1993年11月～1994年10月

加盟館紹介（3）

埼玉工業大学附属図書館 柳沢三郎（事務長）

埼玉医科大学附属図書館 小野沢繁雄（課長補佐）

女子栄養大学図書館 朝倉綾子（図書館長）

武蔵丘短期大学図書館 前川朋江（司書）

共栄学園短期大学図書館 茂木代美（図書館職員）

報告二題 実務担当者研修会について・幹事館会議報告 田口稔（東京国際大学）

SALA 会報 No04**1996年3月31日発行**

大学図書館への学生の声 吉中龍之進（代表幹事館埼玉大学附属図書館館長）

《特別寄稿》アメリカの大学図書館事情 金容媛（駿河台大学文化情報学部）

「相互協力便覧」の改訂版をつくり終えて 川上蓉子（文教大学越谷図書館）

活動報告1995 総会及び幹事会 永井康友（埼玉大学附属図書館）

盛況！第7回実務担当者研修会 テーマは「利用案内の多様な在り方を探る」報告 永井康友（埼玉大学附属図書館）

活動歴 1994年11月～1995年12月

本会名と略称について 本連絡協議会の「略称の募集」について 戸田猛（城西大学図書館）

名称について新たな提案 宇田川進（東京国際大学）

SALA 会報 No05**1997年3月31日発行**

石の文化遺産に見る歴史の一断面 吉中龍之進（代表幹事館埼玉大学附属図書館館長）

《特別寄稿》図書館と私 北野大（淑徳大学みずほ台図書館館長）

活動報告1996 永井康友（埼玉大学附属図書館）

第8回実務担当者研修会開かる！テーマは「利用者との新たな接点を考える」第8回実務担当者研修会実行委員会

SALA 会報 No06**1998年3月31日発行**

オリジナルが変わった 梶山皓（代表幹事館 獨協大学図書館館長）

SALA アンケート集計 —1997 インターネットの利用— 担当 葛西信雄（淑徳大学みずほ台図書館）

私達のインターネット体験—第9回実務担当者研修会
参加者の声— 小林真人 (東京国際大学)

インターネット／ホームページの活用～4館からの事例
報告～

ホームページについて 近藤秀二 (十文字学園女子短期
大学図書館)

ホームページ作成の現場から 若生政江 (城西大学水田
記念図書館)

東洋大学図書館のホームページ作成まで—朝霞分館とし
て— 高野光代 (東洋大学図書館朝霞分館)

インターネット公開から2ヶ月 吉見博子・辺見学 (文
教大学越谷図書館)

活動報告1997 山口忠信 (獨協大学図書館)

SALA 会報 No07

1999年3月31日発行

21世紀の図書館ネットワーク～ 図書館の一次関数的
本質～ 戸田愼一 (東洋大学社会学部)

私立大学共同保存図書館 21世紀の図書館ネットワ
ークへの期待 戸田あきら (文教大学越谷図書館)

情報交換のためのネットワークづくり 遠藤恵子 (明の
星女子短期大学図書館司書)

第10回実務担当者研修会開催 テーマ:「利用者サービ
スにおけるホームページの利用法」

活動報告1998 山口忠信 (獨協大学図書館)

SALA 会報 No08

2000年3月31日発行

SALA専用ホームページの開設 <http://www.sala.gr.jp/>
杉田和之 相澤修一郎 (淑徳大学みずほ台図書館)

SALA研修会報告

SALA加盟館・ひとことPR

活動報告1999 山口忠信 (獨協大学図書館)

SALA 会報 No09

2001年3月31日発行

本のはなしを少し 川嶋行彦 (代表幹事館 東京国際大
学図書館長)

図書館の機能が社会に求められている 森崎震二 (元専
修大学教授)

第12回実務担当者研修会 テーマ:「図書館利用に関す
る今日的課題」

その後のSALAホームページ —開設から1年を経過
して— 杉田和之 (淑徳大学みずほ台図書館)

活動報告2000 空林徹 (東京国際大学図書館)

SALA 会報 No10

2002年3月31日発行

「設立総会の1枚の写真」一定年で去るにあたって—
戸田猛 (城西大学水田記念図書館)

太平洋に架ける橋 —朝河貫一の生涯 井出孫六 (東京
国際大学国際関係学部教授)

第13回SALA実務担当者研修会概要 テーマ:電子化
時代の図書館利用

東洋大学付属図書館朝霞分館の地域開放 高野光代 (東
洋大学付属図書館朝霞分館)

早稲大学所沢図書館の地域開放について 井口牧二 (早
稲田大学所沢図書館)

活動報告2001 空林徹 (東京国際大学図書館)

SALA 会報 No11

2003年3月31日発行

「図書館から豊かさを」 西山勉 (代表幹事館 東洋大学
付属図書館朝霞分館長)

「女と男の生物学」 山内兄人 (早稲田大学人間科学部教
授)

第14回SALA実務担当者研修会概要 テーマ:資料の
相互利用の促進に向けて

学外者への開放に対する 利用者の評価 戸田あきら
(文教大学越谷図書館)

活動報告2002 大新井輝男 (東洋大学附属図書館朝霞
分館)

SALA 会報 No12

2004年3月31日発行

「学術情報コミュニケーションのデジタル化」 藤野毅
(埼玉大学大学院理工学研究科助教授)

第15回SALA研修会概要テーマ:「図書館ポータルの実
現を目指して」

活動報告2003 大新井輝男 (東洋大学附属図書館朝霞
分館)

SALA 会報 No13

2005年3月31日発行

文化の継承と図書館 時田澄男 (代表幹事館埼玉大学図
書館長)

現場の実践による専門性評価 大谷康晴 (青山学院女子
短期大学講師)

第16回SALA研修会概要 テーマ:アウトソーシング
県立図書館との相互協力 気谷誠 (埼玉大学図書館)

活動報告2004 永井康友 (埼玉大学図書館)

SALA 会報 No14

2006年3月31日発行

第18回総会講演 新しい時代の大学図書館— 学生の
視点に立って— 鬼頭梓 (鬼頭梓建築設計事務所代表)

大学図書館における個人情報保護への「適切」な対応に
ついて 新保史生 (筑波大学大学院図書館情報メディア
研究科助教授)

大学図書館実務における個人情報保護 藤倉恵一 (文教
大学越谷図書館)

「大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館:ピーター
ラビットの絵本の世界」について 河野芳英 (大東文化
大学文学部英米文学科教授)

活動報告 2005 永井康友 (埼玉大学図書館)

SALA 会報 No15

2007年3月31日発行

第19回総会記念講演 大学図書館に期待すること 橋本ヒロ子 (十文字学園女子大学社会情報学部教授)

第18回研修会講演 大学図書館における問題利用者：利用規則を中心として 中野捷三 (東京農業大学教職・学術情報課程嘱託教授)

第18回研修会事例報告 大学図書館実務における情報のリスクマネジメント— 今図書館員に何ができるのか— 近藤秀二 (十文字学園女子大学図書・情報センター)

活動報告 2006 永井康友 (埼玉大学図書館)

SALA 会報 No16

2008年3月31日発行

第20回総会記念講演 青年期の現代的様相 岡村達也 (文教大学人間科学部教授)

第19回研修会講演 図書館と学術情報発信：契機としての機関リポジトリ 村上祐子 (国立情報学研究所学術コンテンツサービス研究開発センター准教授)

第19回研修会事例報告

「栄養と料理デジタルアーカイブス」構築から公開まで 小川禮子 (女子栄養大学図書館事務部長)

埼玉大学学術情報発信システム SUCRA と地域連携の可能性 村田輝 (埼玉大学研究協力部図書情報課専門職員)

女性情報学の拠点として：国立女性教育会館の情報事業 江川和子 (国立女性教育会館情報課長)

活動報告 2007 村田輝 (埼玉大学図書館)

SALA 会報 No17

2009年3月31日発行

第21回総会記念講演 アメリカの大学図書館の現状と課題 井上靖代 (獨協大学准教授)

第20回研修会講演① 大学に求められる図書館の取り組み—機関リポジトリの構築を通して— 村田輝 (埼玉大学図書館)

第20回研修会講演② 『大学ランキング』での評価が向上した東京学芸大学附属図書館の様々な取り組み堀池尚明 (東京学芸大学附属図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2008 記録 ニュートンからピーターラビットまで～大学図書館のお宝～

活動報告 2008 鈴木正紀 (文教大学図書館)

SALA 会報 No18

2010年3月31日発行

第22回総会記念講演 大学教育におけるリテラシーと図書館 石川巧 (立教大学図書館長)

第21回研修会講演① レファレンス能力を高める“選書という行為” 井上真琴 (大学コンソーシアム京都)

第21回研修会講演② あらためて大学図書館のレファレンスを考える：問題提起にかえて 米澤誠 (国立情報学研究所)

第21回研修会講演③ 図書館ガイダンス事例報告 関口千登世 (城西大学水田記念図書館)

実務研修会 埼玉県地域共同リポジトリ実務研修会報告 村田輝 (埼玉大学図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2009 記録 「太宰治からフェアブルまで～大学図書館のお宝お見せします～」

大場秀穂 (埼玉大学図書館)

活動報告 2009 鈴木正紀 (文教大学図書館)

SALA 会報 No19

2011年3月31日発行

第23回総会記念講演 図書館は、無数の「知の参照系」を提供する機関である 曾田修司 (跡見学園女子大学図書館長)

第22回研修会講演① IRcuresILL から rliaison プロジェクトへ：リポジトリと図書館活動の接点を探して 南絵里子 (小樽商科大学学術情報課情報普及係)

第22回研修会講演② ご依頼いただいた文献は〇〇で入手できます：ILLサービスのキャンセル事例から考える文献の流通環境と図書館サービス 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

事例報告① 「紀要の電子化にあたって～埼玉学園大学の場合～」 関矢久美子 (埼玉学園大学・川口短期大学情報メディアセンター)

事例報告② 地域共同リポジトリ SUCRA ～参加までとこれからと～ 湊伸子 (埼玉女子短期大学図書館)

事例報告③ 紀要の電子化で変わったこと 菊池美紀 (聖学院大学総合図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2010 記録 「大学図書館のお宝お見せします」合同特別企画「私たちはあなたの一歩を応援します！～ご存知ですか？お仕事支援～」

活動報告 2010 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No20

2012年3月31日発行

SALA ホームページがリニューアルしました!!

第23回研修会講演 大学図書館における学習支援サービス再考—学習支援を再構築するラーニング・コモンズ— 呑海沙織 (筑波大学図書館情報メディア系准教授)

第23回研修会事例報告① 大東文化大学の初年次教育—東松山キャンパスでの取り組み— 押川典昭 (大東文化大学副学長)

第23回研修会事例報告② 大学院生との連携によるラーニングアドバイザー制度— 立教大学図書館における学習支援の取り組み事例— 鈴木加奈子 (立教大学新座図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2011 記録 「大学図書館の

お宝お見せします」

活動報告 2011 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No.21

2013年3月31日発行

図書館から拓く「知る自由」土方透 (聖学院大学総合図書館長)

キャンパス FM と BCP—大学における事業継続計画の考え方—尾崎健夫 (大学行政管理学会ファシリティマネジメント研究会 世話人)

『みんなで考える図書館の地震対策』を読む・考える・行う 石川敬史 (十文字学園女子大学)

図書館と県民のつどい埼玉 2012 記録 「大学図書館のお宝お見せします」

活動報告 2012 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No.22

2014年3月31日発行

「骨太人生をめざそう」上西一弘 (女子栄養大学 栄養生理学研究室)

もうひとつのビブリオバトル 開催前・後の広報活動 平正人 (文教大学教育学部)

事例報告「城西大学水田記念図書館ビブリオバトル」関口千登世 (城西大学水田記念図書館)

Open Library Weeks : OLV 実施報告 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2013 報告 「大学図書館のお宝お見せします」

活動報告 2013 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No.23

2015年3月31日発行

医療における薬剤師の活動 細谷 治 (城西大学薬学部) 地域における大学図書館と公共図書館の役割 内野安彦 事例報告「進化する図書館ボランティア」筑波大学附属図書館ボランティアについて 原澤仁美 (筑波大学附属図書館情報管理課専門職員)

事例報告「地域と大学図書館をつなぐものは」塩谷智紗子 (文教大学あいのみ文庫代表)

平成 26 年度 Open Library Weeks : OLV 実施報告 相澤修一郎 (淑徳大学みずほ台図書館)・若生政江 (城西大学水田記念図書館)

図書館と県民のつどい埼玉 2014 報告「SALA 加盟図書館所蔵資料展示会」

活動報告 2014 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No.24

2016年3月31日発行

第 28 回総会記念講演 大学生が森を創る 一駿大『森林文化』の取り組み 原聰 (駿河台大学心理学部教授)

第 27 回研修会講演 社会システムとしての図書館における協働の意義 ～学びあうコミュニティの形成を視野

に 石川敬史 (十文字学園女子大学人間生活学部准教授) 第 27 回研修会事例報告① 共読ライブラリープロジェクトにおける『協働』の試み —教員・学生・外部のプロとの協働の実際— 中嶋康 (帝京大学学術情報グループメディアライブラリーセンター)

第 28 回研修会事例報告② 十文字学園女子大学図書館のライブラリーサポーターの活動 ～図書館総合展ポスターセッション最優秀賞までの道のり～ 安達美奈子 (十文字学園女子大学学術情報部図書課)

平成 27 年度 Open Library Weeks : OLV 実施報告 相澤修一郎 (淑徳大学みずほ台図書館)・菊池美紀 (聖学院大学総合図書館)・廣瀬洋 (埼玉医科大学附属図書館) 図書館と県民のつどい埼玉 2015 報告「SALA 加盟図書館所蔵資料展示会」中山浩二 (聖学院大学総合図書館) 活動報告 2015 鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

SALA 会報 No.25

2017年3月31日発行

第 29 回総会記念講演 「出版業界の現状と将来 ～紀伊國屋書店の目指すもの～」高井昌史 (株式会社紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長)

第 28 回研修会講演 学修資源としてのラーニングコモンズ —アクティブラーナーを育てるために図書館ができることは何か— 野末俊比古 (青山学院大学教育人間科学部准教授)

図書館と県民のつどい埼玉 2016 報告「SALA 加盟図書館所蔵資料展示会」

活動報告 2016

新代表幹事館あいさつ 埼玉大学図書館

平成 28・29 年度 SALA 幹事紹介

SALA 会報 No.26

2018年3月31日発行

第 30 回総会記念講演 画家レオナルド・ダ・ヴィンチの素描・手稿・蔵書 田辺清 (大東文化大学教授・大東文化大学図書館長)

第 29 回研修会講演 生き残る図書館は大学教育の“本丸”を攻める ～授業・自習支援サービスを見直す究極の理想イメージ～ 仁上幸治 (図書館サービス計画研究所 代表)

平成 29 年度 Open Library Weeks : OLV 実施報告 聖学院大学総合図書館・明海大学浦安キャンパスメディアセンター (図書館)・大東文化大学 60 周年記念図書館・国立女性教育会館

図書館と県民のつどい埼玉 2017 報告「SALA 加盟図書館所蔵資料展示会」

活動報告 2017

SALA通信の目次

SALA 通信 No.1

1996年12月1日発行

創刊の辞 埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会
SALA 通信 担当幹事館 相澤修一郎(淑徳大学みずほ台図書館) / 永井康友(埼玉大学附属図書館)
よろしくお祈いします 遠藤恵子(明の星女子短期大学図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労 柴原秀美(埼玉大学附属図書館)

システムたべある記 高野洋弥(淑徳大学みずほ台図書館)

当館のベスト5・ワースト5 狗飼卯女子(十文字学園女子短期大学図書館)

フリーコーナー 投稿など No.001

「SALA 通信」に望むこと 澤木公義(駿河台大学図書館)

SALA 通信 No.2

1997年4月25日発行

SALA 第10回総会のおしらせ

よろしくお祈いします 長谷川美樹(文教大学越谷図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労 前川朋江(武蔵丘短期大学図書館)

システムたべある記 末木慎一(目白大学図書館)

当館のベスト5・ワースト5 品川今日子(山村女子短期大学図書館)

フリーコーナー 投稿など No.002

SALA 通信 No.3

1997年10月20日発行

SALA 第9回実務担当者研修会のおしらせ

よろしくお祈いします 関根栄一(城西大学水田記念図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労 笹川人美(聖学院大学総合図書館)

システムたべある記 桑原忠(日本工業大学図書館)

当館のベスト5・ワースト5 中野和廣(東京電機大学総合メディアセンター)

フリーコーナー 投稿など No.003

インターネットとレファレンス 葛西信雄(淑徳大学みずほ台図書館)

SALA 通信 No.4

1998年3月20日発行

業務組織と専門性について 鹿島仁郎(東洋大学附属図書館朝霞分館)

よろしくお祈いします 永井厚子(文京女子大学図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労 高木綾子(跡見学園女子大学図書館)

当館のベスト5・ワースト5 湊伸子(埼玉女子短期大

学図書館)

フリーコーナー 投稿など No.004

利用者本位主義 梅森良一(東京国際大学図書館)

SALA 通信 No.5

1998年10月20日発行

「SALA」は舞い上がるのか ～発展を願って～ 戸田猛(城西大学水田記念図書館)

よろしくお祈いします 谷澤道子(埼玉県立衛生短期大学附属図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労

井上勝海(駿河台大学図書館)

システムたべある記 椎谷素久(獨協大学図書館)

当館のベスト5・ワースト5 飯島肖子(埼玉純心女子短期大学図書館)

フリーコーナー 投稿など No.005

書庫狭隘化による相互協力と分担保存 近藤秀二(十文字学園女子大学情報・資料センター)

SALA 通信 No.6

1999年3月30日発行

よろしくお祈いします特集 ～レファレンス担当者編～
よろしくお祈いします その1 高瀬恒夫(東京理科大学図書館久喜分館)

よろしくお祈いします その2 狗飼卯女子(十文字学園女子短期大学図書館)

よろしくお祈いします その3 吉田明子(東洋大学附属図書館朝霞分館)

よろしくお祈いします その4 茂木代美(共栄学園短期大学図書館)

よろしくお祈いします その5 池内和恵(女子栄養大学図書館)

よろしくお祈いします その6 大野しのぶ(川口短期大学図書館)

SALA 通信 No.7

1999年11月30日発行

我が大学図書館30年 小川禮子(女子栄養大学図書館)

よろしくお祈いします 吉岡成夫(武蔵野音楽大学人間図書館)

よろしくお祈いします 靄島千枝子(国際学院埼玉短期大学附属図書館)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦労 小柳かおり(明海大学歯学部図書館事務課)

システムたべある記 伊豆桂子(大東文化大学60周年記念図書館)

告知板 その1 相互協力便覧担当幹事校 戸田あきら(文教大学越谷図書館)

SALA 通信 No.8

2000年4月28日発行

SALAの歩みを振り返る

よろしくお願ひします 荒井美照(尚美学園大学メディアセンター)

こんなところでひと工夫 こんなところでひと苦勞 鈴木正紀(文教大学越谷図書館)

システムたべある記 中里芳隆(平成国際大学附属図書館)

当館のベスト5・ワースト5 尾川文枝(跡見学園女子大学図書館)

「SALAの歩みを振り返る」 p.1のつづき

SALA 通信 No.9

2001年2月23日発行

新規加盟館挨拶

SALA加盟のご挨拶 小泉徹(立教大学武蔵野新座図書館 課長)

初めまして。宮下明日香(武蔵野短期大学図書館)

図書館が抱えている今日の問題

図書館職員1年生です。どうぞよろしく。 見目陽子(埼玉県立大学図書館)

蔵書構築の問題 鈴木守(西武文理大学図書館)

館内放送 早川進一(立正大学熊谷図書館)

図書館の抱える問題 大塚裕子 小島一恵(埼玉短期大学図書館)

SALA 通信 No.10

2001年11月28日発行

新規加盟館挨拶 関谷久美子(埼玉学園大学情報メディアセンター)

特集:短期大学の現状

『がんばります。』 宮下明日香(武蔵野短期大学図書館)

小峰千晴(武蔵丘短期大学図書館)

変化の対応 悪戦苦闘中 品川今日子(山村女子短期大学図書館)・薮島千枝子(国際学院埼玉短期大学附属図書館)

SALA 通信 No.11

2001年5月発行

新規加盟館挨拶 野村美智(人間総合科学大学附属図書館)

特集:短期大学の現状 pt.2 大野しのぶ(川口短期大学図書館)・湊伸子(埼玉女子短期大学図書館)

短大と大学の共有図書館となつて 茂木代美(共栄大学・共栄学園短期大学図書館)

小さな短大図書館のあゆみ 遠藤恵子(明の星女子短期大学図書館)

SALA 通信 No.12

2003年5月発行

オリエンテーションあるいは 利用教育

魅力ある図書館の紹介 伊藤恵子(東邦音楽大学図書館)

ガイダンスについて 加藤亜矢子(東京国際大学第1キャンパス図書館)

オリエンテーションへの取り組みと現在学生気質 荒井美照(尚美学園大学メディアセンター)

オリエンテーションについて 新井浩(駿河台大学メディアセンター)

SALA 通信 No.13

2005年5月16日発行

日本工業大学図書館 くわばら ただし(日本工業大学図書館)

平成国際大学図書館 お金のかからない、図書館の工夫 おか たかし(平成国際大学図書館)

埼玉医科大附属図書館 雑誌コレクションの評価 しばた よしたか(埼玉医科大附属図書館)

女子栄養大学図書館

SALA 通信 No.14

2006年5月19日発行

武蔵野音楽大学図書館 よしおか しげお(武蔵野音楽大学図書館)

東京家政大学図書館狭山図書館

聖学院大学総合図書館 いちき ようこ(聖学院大学総合図書館)

SALA 通信 No.15

2007年5月22日発行

国立女性教育会館・女性教育情報センター (NWEC)

立正大学情報メディアセンター(熊谷図書館)

尚美学園大学(上福岡キャンパス) かざま まりこ(尚美学園大学(上福岡キャンパス))

SALA 通信 No.16

2008年5月31日発行

秋草学園短期大学図書館 知のオアシスからこころのオアシスへ 吉井利真(秋草学園短期大学図書館図書館長)加藤美佳(秋草学園短期大学図書館司書)

『ピーターラビットのお話』の日本語訳について 河野芳英(大東文化大学文学部英米文化学科教授 大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館運営委員)

獨協大学図書館 萬谷衣加(獨協大学図書館)

立教大学新座図書館 伊藤秀弥(立教大学新座図書館)

SALA 通信 No.17

2009年5月21日発行

特集『機関リポジトリ』

埼玉地域共同リポジトリ SUCRA への誘い 一大学が大学でありつづけるために 村田輝(埼玉大学図書館)

埼玉県地域共同リポジトリ形成事業に参加して 一連携機関 文教大学の立場から 鈴木正紀(文教大学越谷図書館)

埼玉県地域共同リポジトリ SUCRA への参加まで 一城西大学の場合 若生政江(城西大学水田記念図書館)

聖学院大学術情報発信システム SERVE を立ち上げて 一中小大学の機関リポジトリ 菊池美紀(聖学院大学総合図書館)

SALA加盟館数・代表幹事館等

年度	代表幹事館	幹事館数	加盟館数	総会（出席者数）	研修会（出席者数）
1987				埼玉県立浦和図書館 （設立準備総会）（26館32名）	
1988	埼玉大学	7	31	城西大学（27館36名）	
1989	埼玉大学	7	36	東洋大学（35館）	城西大学（24館35名）
1990	埼玉大学	8	35	東京国際大学（32館）	文教大学（24館34名）
1991	城西大学	8	37	獨協大学（35館）	城西大学（26館36名）
1992	城西大学	8	37	埼玉大学（36館）	東京国際大学（26館43名）
1993	城西大学	9	39	城西大学（40館）	早稲田大学（26館49名）
1994	文教大学	9	40	東洋大学（29館47名）	跡見学園女子大学（28館43名）
1995	埼玉大学	12	40	東京国際大学（28館44名）	埼玉大学（27館54名）
1996	埼玉大学	11	41	淑徳大学（29館43名）	東洋大学（24館45名）
1997	獨協大学	11	41	文教大学（26館28名）	東京電機大学（24館33名）
1998	獨協大学	11	41	女子栄養大学（22館36名）	十文字学園女子大学（25館39名）
1999	獨協大学	11	41	城西大学（25館35名）	淑徳大学（15館18名）
2000	東京国際大学	12	43	大東文化大学（24館）	早稲田大学（23館30名）
2001	東京国際大学	12	45	東京国際大学（26館）	立教大学（26館35枚）
2002	東洋大学	12	45	早稲田大学（26館）	東洋大学（26館31名）
2003	東洋大学	13	45	埼玉大学（28館32名）	跡見学園女子大学（22館34名）
2004	埼玉大学	14	45	東洋大学（26館）	獨協大学（23館28名）
2005	埼玉大学	13	46	聖学院大学（27館）	埼玉県立大学（34館44名）
2006	埼玉大学	14	47	十文字学園女子大学（25館35名）	大東文化大学（28館36名）
2007	埼玉大学	14	47	文教大学（23館）	国立女性教育会館（17館26名）
2008	文教大学	14	46	獨協大学（23館）	埼玉大学（23館31名）
2009	文教大学	14	45	立教大学（27館40名）	文教大学（30名）
2010	文教大学	13	46	跡見学園女子大学（29館45名）	獨協大学（46名）
2011	文教大学	13	47	淑徳大学（27館39名）	大東文化大学（22館40名）
2012	文教大学	14	47	聖学院大学（25館40名）	文教大学（41名）
2013	文教大学	14	47	女子栄養大学（24館37名）	淑徳大学（19館37名）
2014	文教大学	14	47	城西大学（21館36名）	埼玉大学（31館53名）
2015	文教大学	14	47	駿河台大学（23館35名）	跡見学園女子大学（22館40名）
2016	埼玉大学	10	47	城西大学（28館49名）	十文字学園女子大学（22館46名）
2017	埼玉大学	10	46	大東文化大学（27館42名）	大東文化大学（20館36名）
2018	文教大学	10	46	文教大学（25館39名）	駿河台大学（26名）

SALAの事業・活動

Open Library Weeks

開催日 参加館 テーマ

2013年

10月22日 城西大学水田記念図書館
オンラインを利用した広報活動
～ホームページ、Twitter、SNSを中心に～

11月5日 跡見学園女子大学図書館
図書館の学修支援体制（ラーニングコモンズ）

11月12日、11月20日 文教大学越谷図書館
大学図書館の企画展示 文教大学図書館の事例～教職員おススメの一冊～

2014年

10月27日 城西大学水田記念図書館
学生アドバイザーの立ち上げから成果まで

11月12日 立教大学池袋図書館
新図書館のコンセプト、学修支援機能としてのラーニングアドバイザーの役割、アクティブラーニングとしての図書館機能

11月14日 淑徳大学みずほ台図書館
ラーニングコモンズへの改修から1年を経過して

11月20日 獨協大学図書館
図書館と他部署との融合した学修支援の実際、自動書庫、ゾーニングの実際

2015年

10月14日 淑徳大学みずほ台図書館
展示の多様性 ―展示コーナーの利用を中心に―

10月22日 聖学院大学総合図書館
学内にに向けた広報活動を考える：研究室訪問をしてみませんか？

11月13日 埼玉医科大学付属図書館
電子ジャーナルの利用統計 取得・集計・利用

2017年

10月11日 大東文化大学60周年記念図書館
図書資料のカビ対策

11月1日 明海大学浦安キャンパスメディアセンター（図書館）
図書館オリエンテーションの実施方法について

11月6日 国立女性教育会館女性教育情報センター
NWEC40周年「図書館の連携―男女共同参画に関する情報を中心に―」

11月25日 聖学院大学総合図書館
学生と共に考える学生協働

2018年

10月12日 聖学院大学総合図書館
ビブリオバトルから生まれる連携

SALA 共同購入事業

SALA では2011年度より物品の共同購入事業を行ない、SALA へ加盟することのメリットを具体化しています。2018年度、企業9社と提携しています。

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
(株) 伊藤伊								
オークラ情報サービス (株)								
(株) 紀伊国屋書店								
キハラ (株)								
(社) 埼玉福社会								
(株) 資料保存器材								
ナカバヤシ (株)								
日本ファイリング (株)								
フィルムルックス (株)								
提携企業数	4社	7社	8社	8社	8社	8社	8社	9社
SALA 利用機関数	9館	17館	25館	32館	31館	37館	35館	

図書館と県民のつどい埼玉

開催日 参加館数 会場

2007年10月27日

さいたま市民会館うらわ

パネリストによるディスカッション

2008年11月1日 6館

さいたま市浦和コミュニケーションセンター

2009年11月28日 9館

さいたま市浦和コミュニケーションセンター

2010年10月2日 8館

さいたま市文化センター

2011年11月5日 8館

桶川市民ホール・さいたま文学館

2012年12月2日 11館

桶川市民ホール・さいたま文学館

2013年12月1日 6館

桶川市民ホール・さいたま文学館

2014年12月14日 12館

桶川市民ホール・さいたま文学館

2015年12月13日 5館

さいたま市民会館うらわ

2016年12月18日 7館

北本市文化センター

2017年12月17日 8館

桶川市民ホール・さいたま文学館

2018年12月16日 10館

北本市文化センター



埼玉県地域共同リポジトリ (SUCRA) 参加大学およびアイテム数

2008年11月に文教大学がコンテンツを登録したことで地域共同リポジトリの運用が開始しました。その後、2018年4月に運用は終了しました。

SUCRAポスター



参加大学名	アイテム数
埼玉大学	7,784
跡見学園女子大学	3,181
文教大学	6,468
城西大学	1,822
埼玉純真短期大学	20
埼玉県立大学	101
共栄大学・共栄学園短期大学	70
埼玉女子短期大学	460
埼玉東萌短期大学	36
淑徳大学	244
合計	20,186

(2016年11月21日時点)

SUCRAホームページ



SALA のホームページ

1999年10月1日にホームページを公開しました。2005年にメーリングリストの運用可能なプロバイダに移行し、2011年10月1日から、NetCommonsを導入して、加盟館自ら相互協働便覧など逐次修正できるホームページへと、大幅にリニューアルしました。

The image shows a screenshot of the SALA website. The top part displays the homepage with a navigation menu including '会則', '活動歴', '事業計画', '議事録', '広報誌', '報告', 'お知らせ', and 'リンク集'. Below this is a section for '加盟館・相互協力便覧' (Member Directory) with a list of member libraries and their contact information. The bottom part of the image shows a detailed view of the member directory, listing member names, URLs, phone numbers, and addresses.

会則 **活動歴** **事業計画** **議事録**
広報誌 **報告** **お知らせ** **リンク集**
加盟館・相互協力便覧

加盟館・相互協力便覧

事務局: 東京理科大学図書館
〒350-1197 埼玉県川越市北1-19-1
Tel. 0482-32-1111
(F内)281
Fax. 0482-32-4829
Web管理: 十文字学園女子大学情報資料センター
〒352-8510 埼玉県新都市菅沼1-9-2

加盟館・相互協力便覧

ここに埼玉県大学・短期大学図書館協議会の加盟館を掲載し、合わせて相互協力便覧のデータ(PDF形式ファイル)を収録しています。

PDFファイルの表示には、Adobe Acrobat Reader が必要です。
お持ちでない方はこちらから入手してください。

館名	URL (所属機関のページへリンクしている場合もあります)	相互協力便覧
埼玉大学附属図書館	http://www.lib.saijama-u.ac.jp/ 048-858-3668	<input checked="" type="checkbox"/>
埼玉大学図書館	338-8570 埼玉県浦和市下大久保255 http://www.spu.ac.jp/library/ 0489-72-4122	<input checked="" type="checkbox"/>
埼玉県総合資料センター	343-8540 埼玉県越谷市三野宮820	<input checked="" type="checkbox"/>

相互協力便覧

図書館相互利用

国公立 並行検索 100件

大学・図書館名 国立女性教育会館・女性教育情報センター
国公立・私立 国公立

大学・図書館名 埼玉大学図書館センター
国公立・私立 国公立

大学・図書館名 埼玉大学図書館
国公立・私立 国公立

国公立 並行検索 100件

SALA の紹介

SALA はこのようなところで紹介されています。

松田上雄 地域協力組織の形成に向けて一埼玉県大学・短期大学図書館協議会の第一歩 図書館雑誌. 83(7):1989.7. 394-395 ISSN 0385-4000

鈴木 正紀, 若生 政江, 菊池 美紀, 他. 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA) のあゆみと今後の展開. 大学図書館研究 = Journal of college and university libraries / 国公立大学図書館協議会委員会大学図書館研究編集委員会 [編].. (97):2013.3. 49-55 ISSN 0386-0507

鈴木 正紀. 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA) の活動: 地域における図書館連携の強化を目指して. 図書館界 / 日本図書館研究会 [編].. 64(3)=366: 2012.9. 212-217 ISSN 0040-9669

SALA設立までの資料

埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会発足当時の熱い思いの詰まった資料

1998年の第11回総会で「連絡」をとることが承認され改正、研修会も2003年に「実務」がとれ、協議会名および研修会名とも現在の名称となりました。

【趣意書】

埼玉県内、大学・短期大学図書館の連絡組織設立について（趣意書）

埼玉県内では、この数年大学・短期大学の設立、改称・分館が増え、東京都内に本拠を持つ大学の分館を含めれば40を超える図書館が活動して居ります。しかしながら、設立の日まだ早い故もあってか、相互の交流は一部に於いて行なわれているに過ぎず、お互いにその存在すら知ることもなく過ぎて居ります。

過る1981年、全国図書館大会が別荘に於いて開催されましたが、その開催準備のため、国立短期図書館の計入りで、県内の大学図書館の集まりが図られ、また県内の大学図書館の現状などが報告されましたが（『埼玉の図書館 1981 その現状と課題』埼玉県実行委員会 編刊）当時は、基礎のないまま、短時間で集まる必要もあって県内に本拠を置く大学に限りませんでした。その後、県内の連絡組織の必要は認識されてはいましたが、具体的な動きのないまま今日に至って居ります。

これには、様々な理由があるかと思いますが、端的に言って自館の活動に手一杯な状況が必要を感じながら、具体的な活動を立ち上げようとしていたことにあるかと思えます。この様な現状を打開し、相互利用・相互協力による情報・学生に対する資料提供サービスをより充実させることを目標に、情報の交換、交流によって図書館活動の進展の一助にしたい、という考えのもとに、昨年有志が集い、寄り寄り組織を建てまいりました。

県内の大学図書館・短期大学図書館の多くは、いわば発展途上であり、その基礎形成に多大な苦労を要しますが、互に互に、お互いの協力も必要かと存じます。同様の通り、学習情報センターの設置など、学習情報流通システムの急速な進展は、地域ネットワークの形成など、地場的結合の課題をも提示しているかと思われまます。

県内の、公共図書館や学校図書館には、それぞれ独自の連絡組織があり、活動して居ります。少しづつ交流の實をあげ、お互いに助け合える組織を作りたいと考えます。このような趣意に賛同され、ご参加下さるようお願い申し上げます。

1988年 1月

発起人一同

【設立準備会開催のご案内】

1988年2月3日

大学図書館各位

発起人一同

（名称）埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会
設立準備会（全体会）開催のご案内

立会とは申せ、恐ろ未だ厳しきこの頃ですが、貴大学図書館に於かれましては、益々ご発展の事とお慶び申し上げます。さて、かねてより、埼玉県内の大学図書館の交流の輪を形成することに、より、お互いの図書館の発展をはからんと、心ある有志が約一年の余り協議を重ねて参りましたが、この度、連絡協議会（仮称）設立準備全体会を下記の通り、開催することになりました。ご多忙とは存じますが、万障繰り合わせ御出席下さいますようお願い申し上げます。

配

日時：1988年3月10日（水）、13時
会場：埼玉県立雄和図書館 1階ホール

議題：1) 開会の挨拶
2) 経路報告
3) 会則の説明
4) 自己紹介
5) その他

注：お平敷ですが、当日の準備のため、2月4日御回答を同封の用紙にて、芝浦工業大学宛お送り下さいます様お願い申し上げます。

1988. 5. 19

埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会
事業計画

- 1) 資料の交換：利用案内、館報、所蔵目録、等
- 2) 地区別、主題別連絡会、実務担当者会議の開催。
- 3) 相互協力便覧の作成。
- 4) 共通閲覧の実施。
- 5) 資料の分担保存の検討。
- 6) 新人実務研修
- 7) その他

【設立準備会経過報告 1987年3月11日（水）／5月27日（水）】

昭和 年 月 日 No. 1

63.1.14

（仮称）埼玉県大学図書館連絡協議会
設立準備会 経過報告

1987年3月11日（水）

1) 設立準備会 総会（下相模）にて、
元東京理科大学学長、黒沢正彦氏、
芝浦工業大学図書館平野学長、山本伊
埼玉大学図書館平野学長、長塚氏と
協議。参加校は、文教大学、
城西大学、東邦大学、芝浦工業大学
埼玉大学の5大学と上3と上2と黒沢氏

1987年5月27日（水）、第1回設立準備会
会場：浦和市立図書館
出席校：埼玉大学、城西大学、芝浦工業大学
：不詳、東京理科大学図書館
平野学長、黒沢正彦氏

芝浦工業大学
大学校会

昭和 年 月 日 No. 2

協議内容：

- 1) 黒沢氏より、埼玉県大学図書館連絡協議会の活動内容が紹介された
- 2) 各校の自己紹介
- 3) 各校の経過報告（芝浦工業大学）
- 4) 埼玉県内の大学図書館のネットワークについて意見交換
- 5) 連絡協議会の構想の中心は、相互協力
- 6) 実務担当者等現場のスタッフの交流が重要視
- 7) 夏休みの明けに全員で池田回 準備会を行うこと。

芝浦工業大学
大学校会

【設立準備会経過報告 1987年11月22日 (木)】

昭和 年 月 日 No. 3

第2回 設立準備会

日時：1987年11月22日(木) 14時

会場：埼玉大学図書館

出席校：埼玉大学、文教大学、城西大学、
東洋音楽大学、芝浦工業大学

協議内容：

- 1) 連絡協議会へ連絡の仕度(2)に
ついて意見交換 正副の公認と本校周
り17 発起校の承認
- 2) 設立に同意の趣旨を 県内の大学にアンケート
調査した。各大学の 意見は 同様に
必要と認められた。県内の大学 約 20
大学に 発起校 本校 5 大学に 分担して 連絡を
することになり 各大学の 処理を 決定した。
- 3) 次回、会場は 埼玉県立浦和図書館に
開催する予定交渉中

11月22日

芝浦工業大学
大宮校舎

昭和 年 月 日 No. 4

- 4) 短大を構成する10校以上、短大の
発起校として参加して頂くこと
- 5) 次回、開催日は12月3日(木)とす

芝浦工業大学
大宮校舎

【設立準備会経過報告 1987年12月3日 (木)】

昭和 年 月 日 No. 5

第3回 設立準備会

日時：1987年12月3日(木) 14時

会場：埼玉県立浦和図書館 第3会議室

出席校：埼玉大学、文教大学、東洋音楽大学、
芝浦工業大学

協議内容：

- 1) 前回の準備会に於いて発起校の
分担した県内の大学に 連絡協議会設立
の趣旨について意見交換した一連の作業の
結果は 各校から 報告があった。
- 2) 芝浦工業大学の 短期大学の 例に
発起校として 女子聖学院短大の 参加
の 報告があった。
- 3) 文教大学図書館・館長補佐、松田と磯氏
が 会則の 設立趣意書について 担当作業を
行った。今後 準備会に 検討して 活用して
いくことになった。

芝浦工業大学
大宮校舎

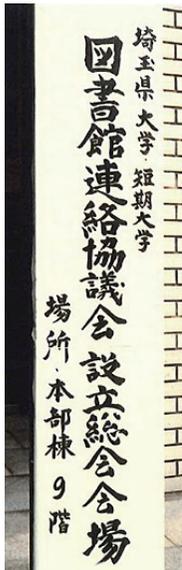
昭和 年 月 日 No. 6

- 1) 連絡協議会へ 設立趣意書 日程に
ついて協議した。今回 各席の 城西大学担当
の 各大学の 意向を 見直し 3月12 設立
趣意書の 開催と 発起校の 承認を 予定
することになり 1月14日(木)に 準備会に
用
- 1) 発起校として 決定した。

芝浦工業大学
大宮校舎

【設立総会及び懇親会のご案内】

【会則】



1988年4月25日

埼玉県立短期大学
図書館連絡協議会
設立総会及び懇親会のご案内

開会の日、貴大学図書館に於かれましては、益々ご発展の事とお慶び申し上げます。さて、ご存じの通り、連絡協議会設立に關しましては、題目の準備会に於いて参加の各大学より、積極的有益なご意見を頂くことが出来ました。つきましては、この夜、これらの御意見をふまえ、下記の通り、連絡協議会設立総会を開催致したくご案内申しあげます。各大学に於かれては、ご多忙中とは存じますが、万難をこらえてご出席下さいませお願い申し上げます。尚、総会終了後、懇親会を開催し、お互いの交際を深めたく存じておりますので、併せてご参加の程お願い申し上げます。

記

日時：1988年5月19日(木)、14時30分
会場：城西大学水田記念図書館(本館)

議題：1) 開会の挨拶
2) 議長及び書記選出
3) 来賓挨拶
4) 連絡協議会会則(案)、事業計画(案)承認の件
5) 幹事選出の件
6) 閉会の挨拶

注：1) 抽籤で選出する。当日の懇親会費として、1名に付、3,000円を申し受けますので、ご了承下さい。
2) お手紙ですが、当日の準備のため、5月12日(木)までに各大学の御挨拶を同封の用紙にて、定数工業大学図書館大分分館へお送り下さいませお願い申し上げます。

埼玉県立短期大学・短期大学図書館連絡協議会会則

第1条 本会は、埼玉県立短期大学・短期大学図書館連絡協議会といひ、事務局を代表幹事館におく。

第2条 本会は、県内大学・短期大学図書館間の相互協力を図り、図書館活動の振興に寄与するとともに、相互の交流・親睦を進めることを目的とする。

第3条 本会は、県内の大学・短期大学の図書館(分館・分室を含む)その他の関係機関をもって会員とする。

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。
1. 図書館間の相互協力の推進
2. 図書館活動に関する調査・研究
3. その他、目的達成に必要な事業

第5条 本会に、總會をおき、加盟図書館の代表者をもって構成する。
1. 總會は、毎年1回幹事会が提案し、必要に応じて臨時總會を開く。
2. 總會は、事業計画、予・決算、会則の制定・改廃、その他本会の運営について議する。

第6条 本会に、幹事会をおく。
1. 幹事会は、本会の運営と会務にあたる。
2. 幹事会は、必要に応じて開催する。

第7条 本会に、代表幹事館及び幹事館若干をおく。
1. 幹事館は、總會で選出し、代表幹事館は幹事館の互選とする。
2. 任期は、1年とし、再選を妨げない。

第8条 本会は、必要に応じて、委員会、地区別・主題別研究会をおくことができる。

第9条 本会の経費は分担金その他をもってあてる。
1. 分担金の額は別に定める。

付則 本会期は、昭和63年 5月19日に施行する。

設立総会議事録(出席者一覽)

埼玉県立短期大学・短期大学図書館連絡協議会設立総会議事録

日時… 1988年5月19日(木)午後2時30分～4時
場所… 城西大学水田記念図書館9F大会議室
出席… 27校36名、日本図書館協議会2名
司会：上野田徳氏(聖学院大学)

議事次第

1.開会の挨拶
城西大学水田記念図書館長 石田徳雄氏

1.議長及び書記選出
開会より、発起人準備委員会が決めた議長：東京国際大学 塩沢博氏
書記：城西大学 戸田盛氏
でよいかの提案がされ總會は承認した。
議長の議事進行に入る。

1.来賓の挨拶
日本図書館協議会常務理事 多田二郎氏

1.議案
議長指名により、文教大学松田上野氏が今迄の準備委員会の経過報告と議案内容説明をした。
①会則(案)及び事業計画(案)の件
①) 会則(案)
会則(案)に盛り込んだ趣旨は、相互交流、親睦を目的としながら、そこから出てくる相互利用、相互協力による図書館活動の活性化をはかる。
今後、幹事館が中心となって活動を進めながら、順次会則をあるたにしていけばとの内容説明がされた。
又、松田氏より次の3件について審議してもらいたいとの提案があった。
②名称の件、③分担金の件、④施行日の件
②… 名称の通りで承認
③… 年会費1段2,000円で承認
④… 昭和63年5月19日とするで承認
②) 事業計画(案)
活動計画は出来るものから始めて行くとするならば資料、情報の交換、各種の交流会などは実行出来るとし、共通関覧の実施、

資料の分担保存などは連絡協議会の今後の重要なテーマとして検討して行くことと説明した。
[意見]
①) 事業計画に柔軟性を持たせ、且つ図書館人としては加減のこと、大学人としての自覚も大切であり「新入職員実務研修」などを入れたらどうかという提案があった。
A1. 色々と意見が出がはば了承された。
A2. 具体的な活動はいつからか。
A3. 幹事館が決まり、そこで具体的に決めたい。おそろく依頼に決まる予定。
上記、審議の結果、
⑤)として「新入実務研修」
7)として「その他」
にすることで總會は承認した。
③) 幹事館選出の件
発起人準備委員会での選出経過が説明され、文教大学、關西大学、滋賀短期大学、東京国際大学、東京大学(駒場)、城西大学、そして条件付で埼玉大学、芝浦工業大学(大宮)の許可が得られれば8校にしたいとの提案がなされた。
芝浦工業大学より最内のコンセンサスがまだ得られていない状況なので除いてもいいかという意見があり、これを了承し6校条件付1計、計7校とした。
④) その他
[意見]
①) 加盟手続き等の問題とそれら書類を送る時、遅れ死するかどうかの質問。
A1. 承認期間がかなりあったので、最内のコンセンサスは得られていると思った。
設立総会の議案が承認されたあと、幹事館で打ち合わせをし、各館長に会談、事業計画、設立趣旨書、加盟手続き等を送り正式な手続きをとりたいとの説明があった。

1.閉会の挨拶
東京音楽大学図書館 伊藤恵子

[配布資料]
1. 会則(案)
1. 事業計画(案)
1. 総会出席者一覽

63. 5. 19
埼玉県立短期大学・短期大学図書館連絡協議会設立総会出席者一覽

關西大学	長尾雄哉	城西大学	石田徳雄
三協刊部	+	+	戸田 盛
女子美術大学	成 寛子	+	高橋清志
東洋音楽大学	伊藤恵子	+	武部知雄
武蔵野音楽大学	地獄園定浩	日本工業大学	松本勇一郎
大正大学 埼玉分館	鈴木正子	明海大学	高野一夫
聖学院大学	上沢田 浩	芝浦工業大学 大宮	二ノ宮一夫
東京国際大学	塩沢博男	駿河台大学	藤田正男
+	田口 隆	城西大学 朝霞分校	池田 勉
早稲田大学 所沢	藤原博司	+	原口庄子
+	金子昌嗣	国際学園埼玉短期大学	奥野香子
埼玉工業大学	柳田三郎	埼玉県立衛生短期大学	柴田一男
大東文化大学	吉江一徳	川口短期大学	小島はるみ
立正大学 熊谷	斎藤機純	上野学園短期大学分館	遠藤忠志
+	杉田 實	明の星女子短期大学	遠藤幸子
埼玉大学	佐藤高市	共栄学園短期大学	茂木代雄
+	東京電機大学 岡山	文教大学	松田上野
群馬大学	藤田浩一	+	+
群馬県立女子大学	豊島美紀	日本図書館協会	多田二郎
			井上 学

